

概要報告

実施期日	7月28日(火)【午前】
部会名	小学校 算数部会

テーマ 『授業記録で授業改善』

提案概要

【平成27・28年度神奈川県小学校教育課程研究会研究主題とのかかわり】

①算数的活動を通して、算数への関心・意欲・態度や数学的な考え方を育てる指導と評価の工夫・改善

【学習指導要領との関連】

第3章 第2節 算数 第2 各学年の目標及び内容 [第1学年] 2内容 D数量関係

(1) 加法及び減法が用いられる場面を式にしたり、式を読み取ったりすることができるようにする。

(2) ものの個数を絵や図などを用いて表したり読み取ったりすることができるようにする。

【算数的活動】(1) イ 計算の意味や計算の仕方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして表す活動

【実践に向けての課題意識】

授業のふり返りをしていたとき、「今日の授業で印象に残っている子どもはだれ、それはなぜ」と聞かれ、答えられない自分がいた。面白く分かりやすい授業をと心掛けてきたが、目の前にいる子どもの姿はほとんど見ていなかったことに気付かされた。それ以来、「目の前の子どもをしっかりと見たい」「子どもの考えや思いをしっかりと受け止めたい」という思いを実現するために、授業の中で子どもたちが何をしてきたのか、どんな発言をしていたのかを詳しく記録しなければならないと考えるようになった。

【実践の概要】

内容基本的には、授業日時、授業の印象（授業の感想を一言で表す）、板書の写真、授業の内容で構成されている。ノート指導と一体となった記録なので、子どもの授業感想も織り交ぜながら記録をまとめる。

手順授業が終わったら必ず板書の写真をデジカメで撮影する。放課後、子どものノートをチェックしながら学習感想を読み、コメントを加える。その後、板書の写真を見ながら、授業で起きたことを、導入の場面から思い出して書いていく。このとき、わたしの発問はもちろんのこと、それに対する子どもたちの反応も書いていく。さらに、子どもたちの反応を受けたわたしの思いや思考の流れもありのままに書いていく。混乱している自分、うまくいわずに焦っている自分、間違った対応をしている自分も隠さずに書くようにしている。

【成果と課題】

- ・授業で起きたことを文章化することによって、授業のねらいが達成できたのかどうか、できなかった場合はその原因を明らかにすることができた。
- ・授業後の子どもの姿（発言・つぶやき・行動）をじっくりと捉え直すことができ、その時間における子どもの評価が適切にできた。
- ・子どもたちをしっかりと見ていなかったこと、計画通りに進めようとして子どもの思考に寄り添えなかったことなど、自分自身の問題点も明らかになった。
- ・授業記録を同僚や保護者に公開し、自分の授業をより客観的に見つめ直すことができた。若い教員には、授業研究の仕方、教材の紹介、授業の進め方など、わたしの持っている授業技術を伝えることができた。
- ・詳細な授業記録を書くには、時間がかかる。

研究協議概要

協議の柱①：授業中の子どもの姿をどう見取っていくか

- ・子どもの発言やつぶやきを大切にし、子どもの様子（表情、頷き）を見る。
- ・子どもが書いたノートやプリントを見る。
- ・ていねいな机間巡視。
- ・ペア会話や討論、自力解決の時間などから、子どもたちの考え方や反応を見ていく。
- ・名簿や座席表に、子どもたちの発言やつぶやき、考えなどを教員が記録していく。

- ・授業後にアンケートをとる。
- ・授業後に、授業に入ってもらった学級支援員から話を聞く。

協議の柱②：授業記録の意義・方法

[授業記録の意義]

- ・教員の授業力向上、子どもたちが楽しく、理解できる授業を作るためのもの。
- ・ふりかえることで授業改善、反省ができる。
- ・今後の授業の計画に役立つ。
- ・評価に役立つ。

[授業記録の方法]

- ・デジカメ（写真）、ビデオ、ボイスレコーダーでの記録。
- ・指導案、授業ノートなどを作り、その記録を貯めていく。研究授業のデータをとっておく。
- ・授業を思い起こして、簡単にメモを取る。
- ・板書を消す際に、自分の1時間の授業を眺めてみる。
- ・名簿に子どもの発言や考えを記入していく。
- ・子どもに授業のふりかえりをノートやワークシートに書かせる。

その他

- ・「分からない」ということを素直に言えるクラスの雰囲気作りも大切。
- ・発達段階（学年）に応じて、見取りの仕方は変わってくるのではないかな。
- ・日々、教員は忙しいので、続けてやるのが難しい。継続して実践できる見取り方や記録の方法を教えてください。
- ・授業のふりかえりをするすることで、自分の授業の課題が見えてくる。この課題を把握した上で、今後の授業計画をすることが大切なのではないかな。

まとめ概要

- ・授業記録をすることで、発問の仕方やそこで何を大事にしなければならなかったのかをつかむことができる。さらに、できていなかったことや抜け落ちていたことがはっきりと分かり、次の授業への改善につながっていく。このように自分自身の授業をふりかえることはとても大事であり、児童理解を深めることにもなる。自分でできる方法で授業記録を取ってみてほしい。

<具体的な方法> ○授業中のやりとりを録音する。

○授業中の様子をビデオ撮影する。

○授業記録の例：授業中のやり取りを文字に書き起こす。

○問題の正誤による分析：SP表

○誤答分析から：どの子にはどのような指導をすればよいのかが分かる。

- ・授業記録という方法を用いて、継続的な取り組みをしていたことが一番大きな提案であった。提案資料の中で感心したことが5つある。

① 授業の写真から授業を思い出し、文章に書いている。

② 自身の授業記録を他の教員にも渡して、その授業記録を基に他の先生も実践していた。

③ 上下の学年の教員同士で授業記録をとっていくことや気づいたことを書きこんでいった。⇒系統性

④ ふりかえりは評価（児童だけでなく、自分自身の授業）になる。

⑤ 授業記録を保護者に配付していた。

今回の授業記録の実践を通して、授業のふりかえり（授業中の子どもの姿、発言、つぶやき、行動をじっくりと捉え直すこと）ができ、子どもだけでなく自分自身の授業評価・改善にもつながった。記録による可視化されたものは、さらなる授業力向上につながる事が分かる実践であった。今後、さらなる進化した授業記録を検証して、授業にいかしてほしい。